

◆（西山信昌議員）

文化政策を大きく推進しようとする機運が高まる中、京都市で世界的な文化イベントが開催されることは、大きな弾みとなります。平成31年にICOM（国際博物館会議）京都大会が、京都市で開催されます。この大会は、3年に一度、加盟国において開催される世界大会であり、約1週間にわたり、全体総会、基調講演などが行われます。世界各国から約3,500人の博物館専門家の参加が見込まれ、博物館を中心とする文化イベントとして大きな成果が期待されます。博物館といえば、博物館と名の付く大きなものを想像してしまいがちですが、美術館はもちろんのこと、動物園、水族館、植物園をはじめ、町なかにある民間の展示施設なども対象となります。昭和23年の第1回大会以来、いまだ日本では開催されていません。そのことを国会において、我が党の浮島とも子現衆議院議員が平成20年6月に指摘し、日本への誘致を進めるべきと質問したことを契機とし、京都での開催が決定したという経緯があり、私どもとしても、その開催につき大いに期待しているところです。

平成29年度予算案においても、イベントの開催経費等が盛り込まれ、先日、京都推進委員会が発足し推進体制が図られました。多くの課題があるとは思いますが、私は、3点ほどの課題を申し上げたいと思います。1点目に、市民の文化力を上げるとともに、京都の文化を世界に発信する好機としてどのように市民ぐるみの取組とするのか、2点目に多くの外国人が各博物館を訪れることになり、各博物館においては、多言語対応が必要となりますが、ボランティアを含めた通訳の確保やWi-Fi環境の整備を進める必要があるのではないか、3点目に京都市の庁内組織の体制強化、京都府や産業界との連携強化を図るべきということであります。これらの課題も踏まえ、市長は、大会成功に向けてどのように取組を進めていくのか御答弁ください。

◎市長（門川大作）

国際博物館会議（ICOM）京都大会についてであります。日本での初開催であり、誘致に成功したことを共に喜び、有意義なものにしたいと決意しております。本会議は、世界136の国や地域から、文化、芸術、自然史、更に科学技術や伝統産業から先端産業、環境問題、おおよそ人類のあらゆる精神活動と表現活動の所産から身近な動物園や植物園に至るまで、全てにわたる30もの分野の博物館などの専門家が参加されている壮大な組織であり、京都大会は有形無形の多くの文化遺産を有する京都の文化、魅力を世界に発信する絶好の機会であると考えております。大会開催に向けまして、中心的役割を担っていただ

く200以上の博物館等で組織する京都市内博物館施設連絡協議会の京都ミュージアムロードでのPRや、夜のミュージアムイベント、同協議会創立25周年記念シンポジウムなどの開催を通じまして、市民の皆様が、本大会をきっかけに博物館等を訪れていただき、文化に親しんでいただける機会を増やし、市民ぐるみで大会の機運を盛り上げることによって、市民の皆様の文化力の向上にもつなげてまいります。

京都市内各博物館施設の多言語化対応につきましては、京都市認定通訳ガイドを活用した博物館ツアーの実施や、大学生や市民の皆様などに通訳ボランティアをお願いするとともに、各館の職員を対象とした外国語研修を行ってまいります。また、博物館等へのWi-Fi設置などの設備の充実についても検討してまいります。今後、大会成功に向けまして、教育委員会、文化市民局、産業観光局を中心に設置している庁内連絡会議を更に全庁レベルで強化するとともに、京都市、京都府、京都商工会議所などオール京都体制で本年1月に発足しました京都推進委員会を中心にプレイベントの企画等に連携して取り組むなど、京都の英知を結集し、文化の力で日本を元気にする、世界に文化を発信する、そのために全力を挙げてまいります。